

自己評価表(令和3年3月 評価)

或寺保育園 評価者 北野砂恵子

A:十分に行っている
B:行っているが十分でない
C:行っていない

第1 保育所の運営管理

評価項目	評価
職員の職務(役割や責任の範囲等)を明確にしているか。	A
職員の労働環境や意向を把握し、必要に応じて改善する仕組みは構築されているか。	A
職員の福利厚生や健康維持のための取組みを行っているか。	A
個人情報の保護に配慮した保育所の運営を行っているか。	A
保育の提供に関する記録を整備しているか。	A
保育の提供に関する話し合いの場を設けているか。	A
保育所にある各種マニュアルについて、検証・見直しを行っているか。	A
保育所の利用開始(保育の提供)に際し、保護者に重要事項説明書の交付及び説明を行っているか	A
実習生等の保育にかかわる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取り組みをしているか	A

第2 保育の内容

評価項目	評価
子どもの発達を理解し、保育指針に示す『生命の保持』に関する援助を適切に行っているか。	A
子どもの発達を理解し、保育指針に示す『情緒の安定』に関する援助を適切に行っているか。	A
子どもの発達を理解し、保育指針に示す『健康』をふまえた保育を提供しているか。	A
子どもの発達を理解し、保育指針に示す『人間関係』をふまえた保育を提供しているか。	A
子どもの発達を理解し、保育指針に示す『環境』をふまえた保育を提供しているか。	A
子どもの発達を理解し、保育指針に示す『言葉』をふまえた保育を提供しているか。	A
子どもの発達を理解し、保育指針に示す『表現』をふまえた保育を提供しているか。	A

保育指針に示す「保育に関わる全般的な配慮事項」をふまえた保育を提供しているか。	A
乳児に対し、保育指針に示す「3歳未満児の保育に関わる配慮事項」をふまえた保育を提供しているか。	A
1～2歳児に対し、保育指針に示す『3歳未満児の保育に関わる配慮事項』をふまえた保育を提供しているか。	A
3～5歳児に対し、保育指針に示す『3歳以上児の保育に関わる配慮事項』をふまえた保育を提供しているか。	A

第2 保育の内容

評価項目	評価
障がいのある子どもに対し、保育指針にある『障害のある子どもの保育』をふまえた保育を提供しているか。	A
子どもの生活や発達の連続性を考え、就学に向けて、保育指針にある『小学校手の連携』を図っているか。	B

第3 保育の計画及び評価

評価項目	評価
保育所の保育理念や子どもの発達過程をふまえた保育課程を編成しているか。	A
保育課程に基づき、指導計画を作成しているか。	A
保育の提供結果について評価し、指導計画の見直しを行っているか。	A
職員の自己評価を行っているか。	A
保育所の自己評価を行っているか。	A

第4-1 健康及び安全(子どもの健康支援)

評価項目	評価
子どもの健康状態、発育及び発達状態を把握しているか。	A
子どもの健康診断を行っているか。	A
感染症を予防するための取組みを行っているか。	A
感染症発生時の体制や対応方法などを定めているか。	A
保育所において与薬する場合、与薬に対する対応方法などを定めているか。	A

第4-2 健康及び安全(環境及び衛生管理)

評価項目	評価
子どもが心地よく落ち着いて過ごすことができる環境を整備しているか。	A
衛生管理のための取組みを行っているか。	A

第4-3 健康及び安全(事故防止及び安全管理)

評価項目	評価
事故防止や安全管理のための取組みを行っているか。	A
事故発生時の体制や対応方法などを定めているか。	A
災害に対する安全確保のための取組みを行っているか。	A
災害時の体制や対応方法などを定めているか。	A

第4-4 健康及び安全(食育の推進)

評価項目	評価
子どもが食事を楽しむことができる環境を整えたり、工夫をしているか。	A
子どもにふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしているか。	A
食物アレルギーを持つ子どもなどに対して、適切な対応を行っているか。	A

第5 保護者に対する支援

評価項目	評価
保護者に対して、保育の内容や子どもの様子などを伝える取組を行っているか。	A
保護者との相互理解のための取組を行っているか。	A
虐待などの疑いがある子どもの早期発見のための取組を行っているか。	A
保護者からの相談・意見・苦情解決のための取組を行っているか。	A

第6-1 職員の資質向上(所長の責務)

評価項目	評価
所長自身が保育所の運営に必要な法令等を理解するための取組を行っているか。	A
保育所の運営に必要な関係機関などを把握しているか。	A
職員が保育所の運営に必要な法令等を理解するための機会を設けているか。	B
保育所の保育の質の向上のための取組に対して、指導力を発揮しているか。	A
事業の改善に向けた取組に指導力を発揮しているか。	A

第6-2 職員の資質向上(職員の研修等)

評価項目	評価
職員の資質向上に関する基本姿勢を明示しているか。	B
職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されているか。	A
定期的に研修計画の評価・見直しを行っているか。	B

○保育実践における気づきと振り返り

- ・子どもの人数が多い中ではあるが、同年齢間のつながりに加え、異年齢とのかかわりも多い。少子化が進む中で、保育園内での異年齢と遊びを通してのかかわりは貴重な体験にもなっていると思われる。
- ・職員の入れ替わりも少なく、子どもや保護者にとっては、どの職員にも理解してもらえという安心感があると感じられる。職員の側からも、子どもの成長発達や家庭環境なども把握できる。
 - ・「子どもの自主性」を大切にする保育と言われる中で、少しずつではあるが、保育士の考え方も変化しつつある。特に年中、年長児においては、自分の意見を出し合い、自分たちで進めく機会が増えてきたと思う。このような保育に向けて、未満児クラスにおいても、自分の思いを伝えることができるようになればと思う。
- ・職員間の仲は良好であり明るい雰囲気の中で保育が行われている。その半面、良好であるがゆえに、仕事に対しても真剣さにかけて感じることもある。
- ・キャリアアップ研修に関しては、県、市それぞれの研修に参加させ、既定の15時間が受講できるようにした。受講後の全職員への研修報告が不十分と感じる。

○次年度に向けて

- ・コロナ感染がおさまらぬ中、子ども達の感染防止するため、除菌、消毒を徹底し、園の行事も感染リスクを高めないように、内容や保護者の参加方法など十分に検討したうえで実施する。職員が感染源とならぬよう、就業時間外の行動にも気をつけるよう周知する。また、熱中症にも十分気をつけ、特に夏場は無理のない保育に心掛ける。
- ・保育については、例年通りではなく、子ども達の間を見ながら、柔軟な対応が心掛けて計画し実施後には振り返りを行うとともに次の活動へとつなげながら活動を発展させる。
- ・支援を必要とする子どもには、臨床心理士の助言を受けながら、個々の子どもに合った対応と保護者との連携することで就学繋げていく。
- ・リーダーの育成と職員同士がお互いに高めあえる雰囲気をつくる。
- ・キャリアアップ研修1科目15時間を4科目が受講間完了できるよう、県、市の研修に加えて兵庫大学での研修も受講対象とする。
- ・研修報告書の様式を検討。研修受講後に記入し、職員会で他の職員に伝えるようにする。
- ・昨年に引き続き園内研修として「コミュニケーション力アップ研修」と、「研究保育」を実施する。施設長として・園内を巡回し子どもや職員の様子、保育の内容などを十分に把握する。